

評価項目	方策と手立て	評価指標	主な評価方法 (評価結果)		自己評価		結果の考察・分析及び 改善策等	評価	学校運営協議会員のコメント
					項目別	総合			
たくましい体	体力の向上	スクールスポーツプラン作成による実態・現状把握	体力テストの目標達成（D・Eの児童を男子20%以下、女子15%以下）	体力テスト	男子29% 女子29%	2	体力テストの結果からみると、努力を要する児童の割合が多い。運動の日常化が課題である。柔軟性を高める運動を、引き続き体育の時間の準備運動で行う。そのとき、どこの部位の柔軟をしているのかを意識させる。 むし歯の治療率が目標とは差があり、保護者に継続的に啓発していく必要がある。未治療の児童に対し、個人の歯の様子を知らせ、保護者からの一言をもらうことで、意識を高めるようにした。保護者からの反応もあり、効果があった。 姿勢については、姿勢指導週間を設定し、児童への意識付けを図った。しかし、タブレット等の使用時に姿勢が崩れがちであった。 食事のマナーについては、保護者との意識にずれがあり、今後も継続的に指導が必要である。また、箸の持ち方やお椀の持ち方等、できていない児童が多い。メニューに関係なくスプーンを使おうとする傾向がある。そのため評価を「3」にした。	2	【体力向上】 ○体力テスト結果から、男女ともに約3割の児童がD、Eに該当するのは問題であり、低い部分を分析した上で、具体的な体力向上対策が必要である。 ○体力テストの目標達成が低いなので今後改善するための方法を具体的に考え、実施していく必要がある。 ○体育等の授業で運動を苦手に思っている子どもの指導について、平等な指導に先生方が苦労しているでは。運動会・体育の授業参観等をして、たくましい体づくりの指導に力を注がれていることを感じた。 【保健指導・歯の治療促進】 ○むし歯治療については、保護者の理解と協力が最も重要であり、引き続き継続的な啓発が必要と考える。 ○むし歯の治療率が目標と差があるので、今後も保護者に治療を促すために引き続き啓発していくよう願う。 ○むし歯治療率が極端に低い。乳歯は生え替わるという油断があるかもしれないので、乳歯のときから歯磨きの励行を習慣付けることが肝要である。 【保健指導・その他】 ○タブレットの使用が増える中、姿勢や視力の低下が心配である。 ○家庭との連携が十分な項目であり、保護者の意識を高めることが不十分ではないか。具体的提示がピンポイント対応等、保護者視点での取組が求められている。
		「楽しい体育の授業」の実践	体育の時間や昼休み時間に楽しく運動する子90%以上	アンケート	90.0%	4			
		運動や遊びの日常化（一校一運動の実践）							
	保健・安全教育の充実	生活リズムチェックの実践・指導・見届け	姿勢に気を付けて生活している子80%以上 「早寝・早起き・朝ご飯」に取り組む子85%以上	アンケート アンケート	69.0% 79.0%	2 2			
		歯の治療の促進（保護者啓発も含む）	むし歯治療率85%以上（非むし歯＋治療率）	治療率	58.1%	2			
		実践力の身に付く安全指導、避難訓練	自ら自分の身を守ろうとしている子85%以上	アンケート	83.0%	2			
		食育の推進	出された食事をマナーに気を付けて食べている子85%以上	アンケート	90.0%	3			
	食育の充実	給食指導の充実							
豊かな心	態度ましの育い育成	自己指導能力の育成（計画的な全校SSTの実践他）	いじめ問題や生徒指導に積極的に取り組んでいる80%以上	アンケート	71.0%	3	「いつでも、どこでも、誰にでも大きな声での挨拶」については、上学年を中心に意識が高まっている児童が見られるようになってきたが、「自ら進んで」の部分ができていない。そのため評価を「2」にした。3学期も指導を続けていきたい。 「友達と助け合う」「されていやことは絶対しない」については、2学期、主に休み時間ではあるが、その他の活動において、一部の児童でできていない場面があった。特別に支援が必要な児童とその児童へのかかわり方に課題を感じている。ルールを守って休み時間を過ごすことの指導を続けながら、その中で教えていくようにしたい。	3	【生徒指導全般】 ○「学校が楽しい」と思うことが重要であると思うが、心の成長には個人差があり家庭生活の状況も様々なので、困難な面もある。 ○地域でも自己中心、自ら考えることなく人に頼ってしまう。そのような子どもの家庭は地域活動に無関心な家庭が多いようである。豊かな心を育てるのは、まず家庭教育ではないか。 【規範意識】 ○あいさつについては、意識が高まって良い傾向にあり、継続して指導を希望する。 ○私見としてあいさつの項目は是非とも「4」が付けられるようになってほしい。 ○規範意識の育成には、常に問いかけながらの指導も必要である。 【いじめ問題】 ○いじめ問題は、家庭環境など微妙なところがあり、難しいと思うが継続指導を望む。 【命の指導】 ○「命」に関する教育は難しいが、この時代では必須である。 【思いやりの心の育成】 ○「自分がされていやなことをしない」の項目が低く、子ども達の中ではその意味や解釈の仕方が分からないのではない。繰り返し、繰り返し学習しないと身に付かないのでは。豊かな心、思いやりの学習は大切である。 ○いじめに繋がるような「されていやなことはしない」という当たり前のことが理解していけるように個別の指導を今後も継続してほしい。
		自主的な学級の係活動や全校ボランティア活動の推進	「学校ボランティア」に取り組む子85%以上	アンケート	79.0%	3			
		キャリアパスポートの有効的な活用							
	規範意識の育成	いつでも、どこでも、誰にでも大きな声での挨拶・返事	「あいさつ・廊下会釈・廊下歩行」が適切にできる子80%以上	アンケート	90.0%	2			
		梅北小「よい子の約束」の指導	きまりを守って生活している子80%以上	アンケート	86.0%	3			
	思いやりの心の育成	道徳の時間、学級活動の時間の充実	友達と助け合って生活している子85%以上	アンケート	85.0%	4			
		人権教育（自尊感情、他者理解）の充実							
		「自分がされていやなことはない。」ことの励行	「自分がされていやなことは絶対しない」と心がけている子85%以上	アンケート	79.0%	2			

評価項目	方策と手立て	評価指標	主な評価方法 (評価結果)	自己評価		結果の考察・分析及び 改善策等	評価	学校運営協議会員のコメント
				項目別	総合			
自ら考える力	学力向上	「学習のルール」の指導の徹底	「学習のルール」を守っている子 80%以上	アンケート	90.0%	4	3	<p>【学力向上・ICT活用】 ○学習面においては、先生方の努力により向上している。ICT活用等多様化により指導も複雑化し、研修の深化が求められる。 ○ICT活用で一人一台のタブレットが提供されており授業での活用が運用されて素晴らしい。一部の児童が理解できず戸惑っている姿もあったのできめ細かい指導が必要である。 ○ICT活用による授業が定着する中で、使い方で学力低下に繋がらないよう継続指導を望む。 ○情報化社会の中で、自ら考え行動することが希薄になっていることを危惧する。理解できないことは、自ら考えることなく情報機器に頼ってしまう。家庭でも自ら考えず両親に頼ってしまう傾向があるのではないかな。</p> <p>【学力向上・わさびの授業】 ○タブレット活用で発表する力、他の意見を聞く力が弱くなっていると感じる。全体的に読解力が全国でも低いと聞いているが、原因は何か。どう解決していくのか。 ○「自分の意見を発表する」ことについては、児童の理解度が高くない場合もあると考えられるので工夫が求められる。 【読書】 ○我が子の様子を見ていると学校図書を借りているだけで、実際に読んでいるのかどうか気になるところがある。</p>
		落ちついた学習環境の工夫（雰囲気づくり） 「わさび」を意識した授業の展開	「わさび」を意識した授業を全授業の100%実施する。 県・全国学力調査 平均以上	アンケート	100.0%	4		
			自分の意見を発表したり説明したりすることができている子 80%以上	学力調査		2		
			分かるまで、できるまで学習する子 80%以上	アンケート	91.0%	4		
		表現活動の質の向上を目指した授業づくり（主題研の継続）	自分の意見を発表したり説明したりすることができている子 80%以上	アンケート	73.0%	2		
		ICTの段階、ステップ3の達成をめざす教育活動の実践	タブレットを活用しながら意欲的に学習する子 80%以上	アンケート	94.0%	4		
	読書教育の推進	図書室の積極的な活用と内容の充実	年間図書貸し出し数（一人100冊、全体11000冊）	貸出冊数	1/22時点 10,148冊	3		
		家読（親子読書）の推進	読書量調査の結果が、昨年度を上回る	読書量	同程度	3		
		くれよん号やひばり文庫の積極的活用	進んで読書に親しむ子 80%以上	アンケート	76.0%	2		
		計画的な読み聞かせ活動の推進						
	家庭学習の習慣化	中郷中ブロック小中一貫学習習慣ガイドの活用	家庭学習の習慣が身に付いている子 80%	アンケート	76.0%	2		
		発達段階に応じた家庭学習内容の提示						
地域との連携	地域学校の推進と連携	中郷地区のめざす児童生徒像「地域に誇りをもって、夢に向かって、明るく元気に努力する中郷の子ども」の具現化を目指した3つの具体的方策の推進	学校運営協議会が計画的に実施されている 90%以上	実施率	100.0%	4	4	<p>【地域との連携全般】 ○地域との連携については、良い傾向であり、「中郷は一つ」の合言葉をさらに地区全体に定着させられたらと感じる。 ○学校の努力により地域との連携は深まっていると思う。コロナ禍を経てさらに深まることを望むが地域情報の把握にはPTAを中心に保護者の協力をお願いしてもよいのでは。特に、災害を想定した対策の検討も急務と考えている。 【学校支援ボランティア】 ○親の生き方を語る会の講師やボランティアの活用は続けてほしい。 ○地域の行事や社会福祉協議会の依頼等取り組んでいただきありがたい。お互いに協力関係が築けていると思う。 【地域貢献活動】 ○地域との連携を評価する上で、最も大きなウエイトを占めるのは、「地域の行事に積極的に参加している子」の項目だと考えるが、その評価が「3」である以上「4」は付けがたい。 ○地域の行事に引き続き積極的に参加してほしい。 ○学校から保護者への呼び掛けについて、地域と保護の無関心なことが多くなっているように思う。保護者が地域活動に協力的な家庭は子ども達も積極的に参加し、子ども達から教えられることも多い。</p>
			計画的な学校評価がなされている 90%以上	実施率	100.0%	4		
		地域を生かした学習の充実	地域人材や資源が教育活動に活用されている 80%以上	アンケート	83.0%	4		
		学校支援地域本部（学校支援ボランティア）の活用	学校支援地域本部（学校支援ボランティア）の活用 年間100人以上	活用数	延べ171人	4		
	地域と素朴な交流を通してのふ	地域貢献活動の実施	地域の行事に積極的に参加している子 60%以上	アンケート	77.0%	3		
		積極的な情報の発信（ホームページや学校だより等）	学校だよりやホームページによる啓発がよくなされている 85%以上	アンケート	97.0%	4		
		参観日等の積極的な呼びかけとPTA活動の充実	参観日や学校行事の設定 85%以上	アンケート	95.0%	4		

※上記の4つとも、学校というよりも保護者の意識を高めるべきと考える。